

# ゆうあい報 おだぴたる



社会医療法人  
**祐愛会織田病院** ODA REGIONAL MEDICAL CENTER

発行者 祐愛会織田病院企画室  
責任者 織田 正道

## 企業とのコラボレーション、 近未来を切り拓く

社会医療法人祐愛会 理事長 織田 正道

新型コロナウイルスは変異しながら、全世界で感染拡大を続けています。日本でも第5波、さらには今後第6波も予測され、いまだ予断を許さない状況が続きます。このコロナ禍の一年半、医療現場だけではなく、あらゆる分野で、これまでの規範や価値観が大きく変わり始めました。

### ●オンライン活用が定着

その最たるものがオンラインの急速な普及です。オンラインによるコミュニケーションが日常となり、物理的な距離に関わらずあらゆるネットワークが維持できるようになりました。前号でも触れましたが、院内においてはオンライン診療や入院面会、さらにはZoomやMicrosoft Teamsを使った会議や委員会の開催。また、院外における活動でも、学会や研修会等はほとんどが同様のツールを使っているのが可能となりました。このように多くの場面でオンライン活用が認められるようになったことは、コロナ発生前には想像すらできなかった変化です。以前は、「直接対面すること」や、「同じ時刻・場所に集合すること」が社会通念であり大原則でした。これは医療や教育分野に限らず一般の社会活動でも同様でした。そのために移動や待ち時間などに多くの時間を割くことになり、日常の業務を犠牲にしたり、他に負担をかけることも多々ありました。しかし、新型コロナウイルスの感染防止や感染拡大を

防ぐために、これら社会の大原則が大幅に緩和され多くの分野でオンライン活用が可能となりました。この利便性を体感した以上、この流れは加速し、元に戻ることはないと思われず。

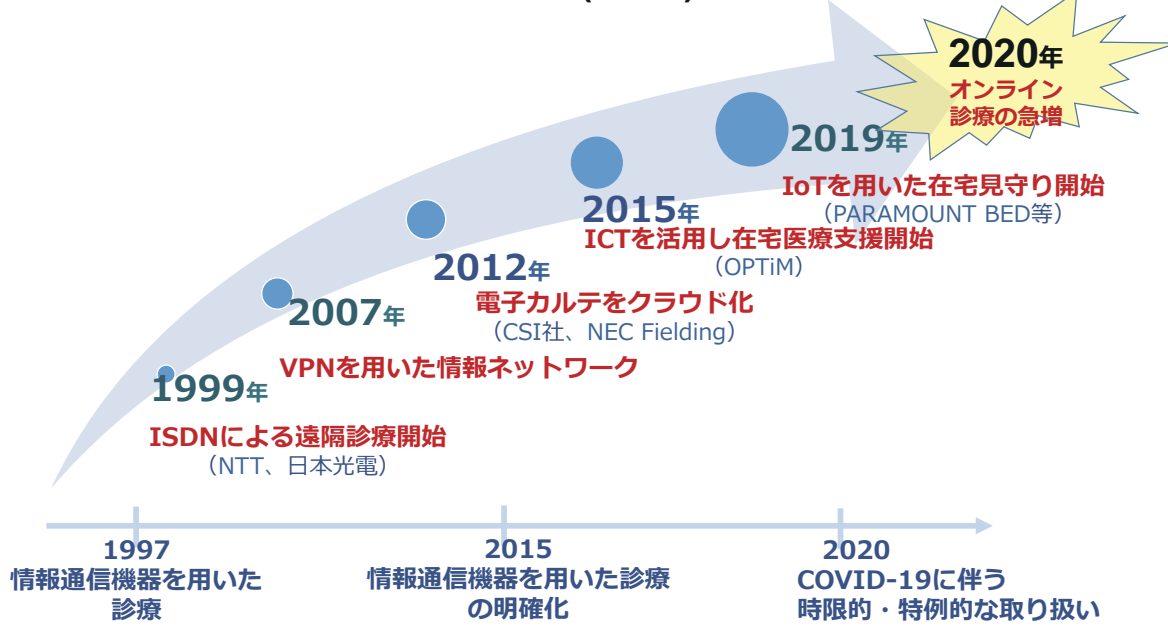
### ●企業とのコラボレーション

さて、当院でのオンラインの取り組みは、在宅患者の状態把握の一環として情報通信機器活用を始めた20年前にさかのぼります。1997年に厚生労働省から「遠隔診療が対面診療の補完として、患者の心身の状況に関する有用な情報が得られる場合、医師法に抵触しない」との通達が出たことから、1999年にNTTと日本光電の協力を得て、外来通院が難しい重度高次脳機能障害や慢性呼吸不全等の患者宅と病院をISDN（電話線を使用したデジタル回線）でつなぎ在宅医療を補完する遠隔診療をスタートさせたのが始まりです。その後、2007年には独自に「VAN (Virtual Private Network)」を用いた情報ネットワークを構築。2012年には電子カルテを在宅現場でも入力できるように、メーカーCSI社とNEC Fieldingを採用し電子カルテのクラウド化を実現。2015年にはOPTIM社と協働で「ICTを活用した在宅医療支援」を本格化。2019年にはPARAMOUNT BEDとの協働による「IoTによる在宅患者の見守りシステム」実

証実験へと発展しました(図)。以上のように、我々の取り組みは、企業の技術支援により可能となりました。また、ICTを活用した業務改善を継続してきたことにより、法人スタッフに、ICTへの知

識や情報を正しく理解し活用できるリテラシーが定着しました。今後も企業や異業種とコラボレーションを続け、この鹿島から近未来の医療のあり方の情報発信をしていきたいと思えます。

## 当院の情報通信技術(ICT等)活用の流れ



1997 情報通信機器を用いた診療

2015 情報通信機器を用いた診療の明確化

2020 COVID-19に伴う時限的・特例的な取り扱い

# 新型コロナウイルス感染症の介護サービス 事業所の経営への影響に関する調査研究

ゆうあいビレッジ施設長 千々岩 親幸

今年3月に新型コロナウイルス感染症が各介護事業サービス経営にどのような影響を及ぼしたかを調べた調査結果が公表されました。

調査は厚生労働省の補助金事業で三菱総合研究所が行ないました。調査方法はアンケート調査をウェブ回答方式で行なわれています。対象事業所数は39199事業所でした。

調査時期は令和2年10月に行なわれ、その時点での収支の状況、支出の変化、個別の経費の状況などが調べられました。また、対象事業所でのコロナ感染症発生の有無も調べられており、その時点では39199事業所中593事業所で発生が認められていました。

サービス別でのコロナ感染症発生数は私たちが関係するサービスでは老人保健施設が1665事業所中37件(2.2%)、通所リハビリテーションが649事業所中17件(2.6%)、通所介護が5566事業所中98件(1.7%)で多くのサービスで約2%前後の事業所がコロナ感染症を経験しているようでした。

このような状況下で収支の状況を感染症流行前と比較して各事業所から回答を得たところ、「悪化した」と回答した事業所の割合は全体の平均で5月が47.5%、10月が32.7%となりました。令和2年の5月は新型コロナウイルス感

染症の情報が少なく社会全体の不安が強い時期であったため10月に比べると経営に悪影響が多かったのかもしれない。

個別のサービスを見てみると5月の回答で悪化した事業所は老人保健施設60.6%、短期入所生活介護(ショートステイ)62.5%、通所リハビリテーション80.9%、通所介護72.6%で通所サービスに高い傾向を認めましたが、老人保健施設の収支の悪化も全体の平均からすれば高くなっていました。10月の回答では多くの事業所が改善傾向になっており「悪化」は50%以下になっていました。

また、老人保健施設のみ50.2%の事業所が依然として悪化していると回答し老人保健施設の経営改善のスピードが遅いことがわかりました。ゆうあいの各事業所でも同様の傾向が見られ、通所リハビリ

リテーションの稼働率が低下し収支の悪化が他事業所と比較しても大きくなっていました。

次に支出の変化についてのアンケート調査では人件費や車輛関係の支出に変化はありませんでしたが、衛生用品に係る支出が大幅に増加していました。冬季のインフルエンザ流行対策で各介護施設は感染予防対策を十分行なってきていますが、今回の感染流行に対しては費用面でもさらなる対応をしなければならなかった状況が読み取れます。

昨年5月に比べ10月は経営への悪影響は低下してきているとは言え、その後1年経過後も次から次と感染の波が押し寄せてきており、クラスターが起きなくても経営への悪影響は続いています。介護事業へのコロナ感染症の影響は飲食業ほどの打撃はないと思われませんが、高齢者の方々が安心して利用できるように、今後も祐愛会の介護サービスは感染予防を徹底しながらも経営も安定させるために様々な努力を行なっていく予定です。

## 「今だから知りたい、新型コロナウイルスワクチン」

薬剤科 緒方 良彦

2020年、新型コロナウイルスが世界中に広がり、多くの命と健康と日常を奪い、私たちの生活が大きく変わってしまいました。新型コロナウイルスが不安と焦燥をかき立て猛威を振るうなか、人類は長年の研究の叡智と技術、そして多大な資金をもつて、約1年で新型コロナウイルスに対するワクチンを開発しました。世界中の人々が打てるように大量生産を行い、

多くの場所でワクチン接種をすすめています。

そしてここ祐愛会でも、スタッフが総力を挙げて、地域の皆様にワクチン接種をすすめています。

ワクチンは、人の命や生活を守り、かつての日常を取り戻すための切り札です。ひとりでも多くの方に安心して接種していただけるように、ここで今一度、ワクチンの①しくみ②効果

### ③安全性について紹介します。

2021年8月現在、国内で承認されている新型コロナウイルスワクチンはファイザー社とモデルナ社のワクチンのみで、これはどちらも「mRNAワクチン」です。

「mRNAワクチン」は、インフルエンザワクチンのような作成に培養が必要な不活化ワクチンとは違い、ウイルスの遺伝子情報のみで作ることができ、短期間で大量のワクチンが作成可能です。また、その発症予防効果も、インフルエンザワクチンの50~60%に比べ、約95%と段違いに高いです。

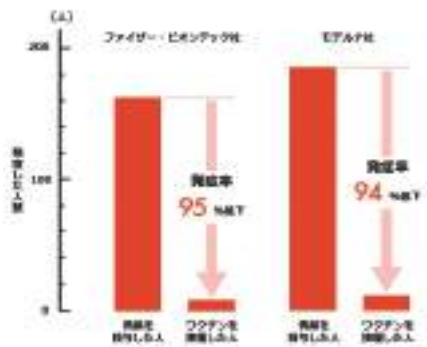
イスラエルの国を挙げた大規模な臨床試験では、発症予防効果だけではなく、感染予防率が約95%、重症化予防率が約98%と圧倒的な効果が報告されました。

安全性についても、騒がれていたアナフィラキシーは100万回に5回程度の頻度で過ぎず、副反応はほとんどの場合1週間以内におさまります。接種対象者は、12歳以上(現時点で)であれば、自己免疫疾患の方であれ、妊婦の方であれ、ほとんどどんな方でも接種が可能です。mRNAワクチンには、接種後の死亡報告や、血栓症が増えるという報告もありません。不妊にもありましたが、その事実も根拠もないことがわかっています。

このように安全性と効果の高い有用なワクチンであっても、様々な情報が錯綜し、不安や怖れから人々を混乱

させます。私たち医療従事者は、そのような情報には惑わされず信頼性の高い情報を収集しつづけ、確かな情報を伝えていくのもひとつの責務のように思います。

この記事は「こびナビ」という民間の信頼性の高い情報元を参考に作成しました。その他にも「厚生労働省新型コロナウイルス感染症について」など、一般の方にも理解できるように正確に親切に書かれた情報源がありますのでぜひこの機会に確認してみてください。



# 健康経営優良法人2021に認定されました

事務部長 宮崎公志

当法人は、2021年3月に健康経営優良法人2021(大規模法人)に認定されました。

健康経営優良法人認定制度とは、地域の健康課題に即した取り組みや日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰する制度です。この認定制度は2017年から始まり今回で5回目となります。認定法人は年々増加しており2021年度は大規模法人部門に1801法人、中小規模法人部門に7934法人が認定されました。

少子高齢化で働き手が減少している中、職員が健康で働き続けられる環境づくりや健康サポートに積極的に取り組む企業が多くなってきています。当法人でもこれまで理学療法士による健康体操の実施、



女性全職員マンモグラフィ無料化、エレベーターではなく階段利用を奨励、健康アプリ導入など様々な健康サポートの取り組みを行ってきました。今回、これらの取り組みを総合的かつ定量的に評価ができるようにと思いこの認定制度にチャレンジしました。

今回の認定を受けるにあたってこれまで行ってきた取り組みを整理することができ、新たな課題を考えるよい機会となりました。また、健康経営推進委員会の設置や法人の健康宣言の策定など全社的に取り組む体制も構築できました。今年度は新型コロナ禍で取り組みを行うこととなりますがオンライン研修やデジタル化を行い継続して実施していきたいと思えます。今回は初めてのチャレンジで認定を受けることができましたが、今後は更に取り組みを充実させ上位500に付加されるホワイト500を目指したいと思います。

## 健康経営宣言

健康経営宣言

本法人は、従業員の健康増進を推進し、労働安全衛生を確保し、社会貢献に努めることを宣言します。健康経営に取り組むことにより、業務の効率化を図り、顧客サービスの向上を図ります。

健康経営推進体制

健康経営推進委員会を設け、労働安全衛生委員会と連携して職員の健康増進のための取り組みを推進します。健康経営推進委員会は理事長を健康経営最高責任者(CHO)とし、委員に各部署の職員を選任することで健康増進の取り組みが職員並びにその家族まで広がる体制としています。

健康経営最高責任者(CHO) 理事長

健康経営推進委員会 事務局(事務管理部)

法人内連携

法人運営会議

労働安全衛生委員会

法人外連携

全国健康保険協会 佐賀支部

会医務法人 株式会社 院長 織田正道

# デジタル化推進委員会発足について

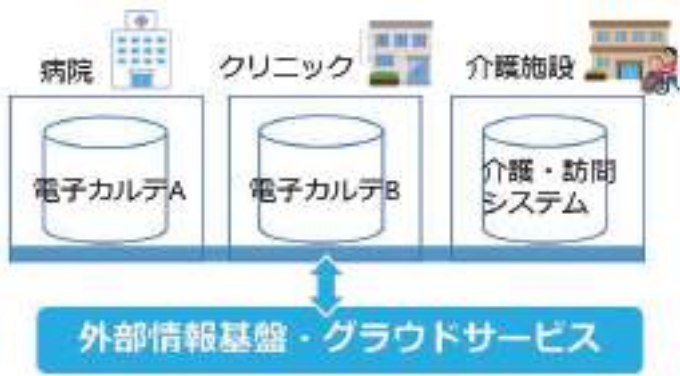
情報管理室 森川伸一

政府はデジタル社会形成の司令塔であるデジタル庁を設立し、デジタル技術を活用した変革・DXを推進し、全ての国民にデジタル化の恩恵が行き渡る社会を実現すべく、取り組みが始まっています。

当院ではICTを積極的に活用し、急性期医療から在宅まで、保健(予防)・医療・福祉・介護の各分野を一体的に提供できる総合ヘルスケアシステムの構築を進めてきました。入院支援システム開発、オーダーリングシステム、電子カルテ導入に始まり、介護・訪問システム、在宅・病棟見守りシステム、オンライン診療、AI問診の導入を通して業務プロセスも随時見直してきました。特に入院時から退院までは時系列な情報を活用した多職種協働でのフラット型チーム医療への転換を進め、退院直後から在宅医療へもケアを継続できる仕組みとして在宅医療支援体制MBC(メデイカルベースキャンプ)を組織しました。

今後は院外との情報共有がテーマとなります。医療介護データ一元化による病院・介護・在宅の一体化やPHR、AI、音声認識、自動翻訳など外部情報基盤やクラウドサービスとの融合も進みます。情報インフラ整備、人材育成も含めた広い視野

でのデジタル戦略が必要不可欠となるため、司令塔となるべく「デジタル化推進委員会」を設置しました。単なる電子化への置き換えだけではなく、サービスの情報連携が進めば早期から継続的に患者さんへ関わることができ、地域の医療ニーズへも迅速に 대응することができます。このようなデジタル化を活用した取り組みを通して、常に優位性を確立する組織へと変革していきます。



# 『看護師特定行為研修修了者としての活動』

私は、令和2年4月(令和3年3月)まで看護師特定行為研修の行為区分「術後疼痛管理」の研修を受けさせて頂き、看護師特定行為研修修了者となりました。

看護師になって十数年が経過し、それなりに経験値はついたものの、人を納得させるような知識は十分ではないと考えていました。日々の業務の中では、考える時間が作れなかったことが現実問題としてありました。今回、研修を受け、eラーニング受講・課題・試験勉強やレポートと、何度

も時間が足りない弱音を吐きながら、講師の先生方の話を聞くことで、多くのことを学ぶことができました。今まで知らなかったことや、臨床推論で医師の診療思考過程について学ぶことができ、自分の看護場面に大きく影響を受けています。今までの何故こうなるのか?という疑問に幅や深さが加わったように思っています。

今年度より、毎月看護師特定行為研修修了者の検討会を行っています。ここでは、自分なりに事例をカルテで振り返り、講義で勉強した知識と

判断をまとめて参加し検討しています。得た知識を使い考

えた事例を発表し、他のメンバーの臨床推論・判断の過程などを聞き、自分に不足したことを気付く機会になっています。他メンバーの発表を聞くことで刺激を受け、私も同じように推論ができるようになりたい、頑張ろうと励みになります。更に診療看護師からの確なアドバイスを頂けることは、何より刺激となり学びや発見に繋がっていると実感しています。

私の看護師特定行為研修修了時の目標は、病棟の看護の質の向上とスタッフ教育でした。現在病棟には3名のメンバーがおり、力を合わせて目標が達成出来るように取り組みを始めました。週に1回カンファレンスの時間に「検討会で検討した事例」をもう一度病棟スタッフで振り返る機会を持ち、スタッフのフィジカルアセスメントの力を高めていきたいと考えています。また、私自身は、救急で入院した症状・疾患がはっきりしない患者のアセスメントを行い、少しでも早く看護援助として何が出来るとか考えられ

3階病棟 池田 美夢

る環境づくりをしていきたいと思っています。



# 「看護師特定行為研修第3期生修了報告」

教育担当部長 市丸 徳美

令和3年4月6日、看護師特定行為研修第3期生の修了式が行われましたのでご報告致します。第3期生は、術後疼痛管理関連4名、在宅・慢性期領域3名(うち2名は共通科目免除)の計7名が修了致しました。

在宅・慢性期領域のパッケージは、呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連、ろう孔管理関連、創傷管理関連、栄養・水分に係る薬剤投与関連の4区分4行為を修得できます。1行為当たり5症例の経験が必要で、受講生は通常の業務に従事しながら実習を行ってきました。医療を受けながら在宅生活を送る患者さんや介護者の方にとっての安心な暮らしに少しで

も貢献できればという一心で学び、無事に修了を迎えられました。今後は、学びを在宅や施設等実践の場で大いに活かして頂きたいと思っております。

◆看護師特定行為研修修了第3期生  
術後疼痛管理関連

- 池田 美夢
- 織田 昇子
- 河本 健太郎
- 山口 賢太

在宅・慢性期領域

- 谷口 繁樹
- 馬場 憲子
- 吉井 朋代

3名



### 新任 Dr 紹介



皮膚科  
中川 彩

令和3年4月1日、佐賀大学医学部附属病院皮膚科より着任しました。皮膚科の中川彩と申します。出身は熊本県熊本市ですが、佐賀大学を卒業して医師になりました。佐賀県医療センター好生館



皮膚科  
森 槇子

このたび佐賀大学医学部附属病院皮膚科より着任いたしました。森槇子と申します。これまで大学病院以外に国立佐賀病院、佐世保共済病院などに勤務してまいりました。織田病院は今回

3度目の勤務となりますが、またこの地で働けることをうれしく思います。皮膚というのは体の一番外側にありますので病気をするとそれが目立ち、人の目も気になるものです。痛みや痒みを伴うことも多く、大きなストレスとなります。病を患った心に寄り添う診療をモットーに、地域医療のお役に立てるよう尽力してまいります。今年度からはアレルギーのテスト(パッチテストやプリックテスト)も可能となりました。今後も新しい取り組みを模索しながら、より良い医療



内科  
西岡 敦二郎

本年度より佐賀大学血液腫瘍内科より着任いたしました。内科の西岡です。昨年度までは、血液疾患や消化器癌や肉腫、原発不明癌などの薬物療法、緩和医療などをメインに行っておりました。今年度からは、生まれ故郷の鹿島で働くことになりました。まだまだ未熟者ですが、皆様のお力になれますよう、全力で頑張る所存です。不勉強な点多々あり、ご迷惑をおかけするかと思います。ご指導・ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。



内科  
牧尾 成二郎

令和3年4月1日、佐賀大学医学部附属病院総合診療部より着任しました。内科の牧尾です。同医学部卒業後、佐賀大学医学部附属病院や嬉野医療センターで総合診療医として勤務して参りました。

また周辺医療機関に非常勤医師として勤務したこともあり、私個人としては、鹿島は非常になじみ深い場所でした。これまでは高次医療機関での集中治療や難治例治療に従事していましたが、今度はより地域に密着した医療のため、今までの経験を活かして地域の皆様のお役に立ちたいと思います。

特に現在とはかつてないほどの大変な社会情勢ではありませんが、このような状況こそ、日本の医療を支えるのはこの地域医療の最前線であることを日々痛感しています。微力ながらその一員として尽力させていただきますので、何卒宜しくお願い致します。



耳鼻咽喉科  
陣野 智昭

令和3年4月1日、佐賀大学医学部附属病院より参りました。耳鼻咽喉科の陣野です。出身は長崎県諫早市で、諫早高校を卒業した後、佐賀大学へ進学しました。医師となつてからは大学病院で初期



耳鼻咽喉科  
西平 啓太

令和3年3月より赴任しました。耳鼻咽喉科の西平です。出身は福岡県で、長崎県の青雲高校、東京の日本大学医学部を卒業した後、九州大学病院で初期研修を行い、同院の耳鼻咽喉科に入局し

ました。今まで九州大学病院、福岡市立こども病院、山口日赤病院、北九州市立医療センターと様々な地域で勤務して参りました。今回は初めての佐賀県での勤務となりますが、地域の方々のお役に立てるよう、努力して参りたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。



形成外科  
中村 薫乃

2021年度より、勤務させていただきます形成外科の中村薫乃です。鹿児島大学を卒業後、済生会福岡総合病院、久留米大学病院などで勤務して参りました。形成外科を受診して良かったと患者さんに言ってもらえるような診療を心がけていきます。及ばない点も多いかと思いますが、どうぞ宜しくお願い致します。

た。及ばない点も多いかと思いますが、どうぞ宜しくお願い致します。

## 地域医療研修を終えて

### 佐賀大学医学部附属病院 2年次研修医 喜代原 環

私は1年目の研修で大学の耳鼻咽喉科で研修を行いました。大学とはまた違った角度から、さらに勉強がしてみたいと考え、佐賀県内でも特に織田病院の耳鼻咽喉科は盛んに手術や外来を行っているとお話を聞いていたため、研修先として選ばせて頂きました。実際に研修をする際には、耳鼻咽喉科に加え、皮膚科にも興味を持っている状況であり、進路選択に迷っている最中でした。ご相談させて頂いたところ、直前の相談であったにも関わらず、臨機応変に対応して下さい、1ヶ月の短い研修期間の間でしたが、両方の科での研修をさせて頂けることとなりました。耳鼻咽喉科では大学ではあまり診ることのできなかつた common disease を沢山経験でき、手術では実際に手技をさせて頂く機会もあり、大変勉強になりました。皮膚科においても、その疾患の頻度は高くても、今までの研修では診たことがないような疾患を沢山経験させて頂きました。研修科以外の先生方にも昼食の際や休憩時間などに、お話をする機会があり、最初は新しい環境での研修に緊張していましたが、とても有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

### 佐賀大学医学部附属病院 2年次研修医 嘉村 真知子

私は佐賀大学医学部附属病院で二年間初期臨床研修を行うプログラムの地域研修で織田病院を選択しました。前年度の研修医から救急外来の対応を研修できるという話を聞き、また学生時代にお世話になった先生がおられた事もあり研修を行いたいと思いました。

研修内容としては、総合診療科で救急外来と病棟に加え、私が3年目以降専攻する診療科での研修もできるようにして頂きました。

救急外来では Walk-in の重症な症例や、症状が非特異的な症例やうまく訴えることができない症例などを経験することができました。そのような症例では問診や診察がより重要となり改めて基本に立ち返る事ができました。

その他、オンライン診療の見学をさせて頂きました。直接の診察ができないため問診や、視診の情報しかなく難しいですが、定期的通院をされている方にとってメリットは大きく自分もスキルを習得したいと思いました。

患者さんの入退院や往診などを経験していく中で、各職種の院内での連携はもちろんです、地域の他施設とも協力し地域の医療を支えていることが強く感じられました。

最後となりましたが、織田病院のスタッフの皆様にご温かくご指導・ご支援頂き大変貴重な1ヶ月間となりました。大変お世話になりました。



本年6月、生理機能検査システムをサーバー型に更新し、これまで紙での運用だった検査項目が電子化され、一元管理できるようにになりました。心電図検査はこれまで機械への患者情報の登録やカルテへの登録も手入力で行っていたので、即時電子カルテでの参照が出まらなかった。また保管も紙で行っていたことから、保管作業や保管場所の確保に苦慮していました。新システムを導入したことで、機械への患者属性はカルテ情報から取得する事で自動入力され、検査後は院内Wi-Fiを利用し、外来(救急外来を除く)をはじめ、

## 新生理機能検査システムについて

診療支援部検査科 宮原 華子

ドックや病棟でも自動送信が可能になりました。さらに導入に伴い、心電図検査だけでなく肺機能検査、脈波検査の機械も更新しました。心電図検査同様、患者属性、身長体重等の情報も自動で入力され、結果が自動送信されるようになり、こちらもペーパーレスに繋がりました。

検査科では今回の生理機能システムの導入により、デジタル化が一歩前進しました。現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、PCR検査や検査業務が多忙となっている中、デジタル化は業務の効率化に繋がっています。また、診療の面でも情報が一箇所に集約されたことで、ファイルを何箇所も開く必要がなくなり手間が省けるようになりました。今後もさらなる効率化に向けた取り組みを行っていきたく考えています。

## 新入職員消防訓練

防災救命担当部長 井上 出

2021年4月13日から27日までの間に5回、新入職員を対象した消防訓練を実施しました。

訓練は

- ① 当院建物の主な構造の概容紹介
- ② 建物に備わっている防火戸や避難

階段、排煙機能などの防災機能の説明  
その上で

- ③ 有事の避難は水平避難を基本とすることの説明
- ④ 建物内に設置してある消防用設備等の説明
- ⑤ 有事の際のそれら消防用設備の使用順と使用方法と実技
- ⑥ 歩行困難者を垂直避難させる場合に使用するイーバックチェアの操作方法と搭乗感の体験

の内容で実施しました。





# 学会(研究会)・講演(講義)・論文発表(2020年)



## 【学会(研究会)発表】

- ・第12回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会(7月23日 広島)
- 織田良正、多胡雅毅、香月尚子、山下秀一
- 「自宅への退院に関連する因子の検討:急性期病院入院患者218例の観察研究」
- 山下駿、織田良正、多胡雅毅、西山雅則、織田正道、山下秀一
- 「IoTを用いた高齢者の室内熱中症のリスク因子の探索:単施設前向き介入研究」
- 多胡雅毅、香月尚子、織田良正、中谷英仁、杉岡隆、山下秀一
- 「寝たきり度を用いた転倒予測モデル式の開発と検証:市中急性期病院入院患者7,858名の後ろ向き観察研究」
- ・モバイルヘルスシンポジウム 2020(9月13日 WEB開催)
- 織田良正「急性期医療から在宅医療までを担う織田病棟のICTの試み」
- ・熊本地域医療ネットワーク(9月24日 WEB開催)
- 織田良正「COVID-19を契機に加速する医療・介護連携」
- ・第58回日本医療・病院管理学会学術総会(10月3日 WEB開催)
- 織田正道「地域医療構想における再検証要請対象病院の指定をめぐって(政策におけるデータの活用)の検討」
- ・日経クロスヘルスEXPO(10月14日 WEB開催)
- 織田良正「COVID-19対応で劇的に変化したオンライン診療」
- ・第1回気候変動への適応と緩和を考える会(10月22日 ウェザーニューズ社 WEB開催)
- 織田良正「医療現場から気候変動への適応と緩和を考える」
- ・第45回佐賀総合診療学カンファレンス(11月18日 WEB開催)
- 本村壮「高齢者の高血圧治療」
- ・第331回日本内科学会九州地方会(11月29日)
- 平田理紗、大家さつき、久田祥雄、徳島圭宜、相原秀俊、藤原元嗣、多胡雅毅、山下秀一
- 「2回目のランダム皮膚生検で診断に至った内分泌異常を伴う血管内大細胞型B細胞性リンパ腫の1例」
- 中島知太郎「Small fiber Neuropathy とMGUSを呈し、最終的にALアミロイドーシスと診断した1例」
- ・病院マーケティングサミットJAPAN 2020(12月4日 WEB開催)
- 織田良正「オンライン診療、是非に及ばず。」
- ・第24回日本遠隔医療学会学術大会(2月11日 WEB開催)
- 織田良正、大会企画シンポジウム JSY4 COVID-19第2波到来事の遠隔医療の活用と第2波への備え シンポジスト
- 「COVID-19を契機に加速した遠隔医療の活用法とさらなる可能性」
- ・令和2年度佐賀県理学療法士協会杵藤広域部症例検討会(2月16日 WEB開催)
- 吉岡文樹「両側硬膜下血腫 両側硬膜下血腫 両側硬膜下血腫 に対するリハビリテーション」
- ・第22回病院総合診療医学会 学術総会(2月20日 WEB開催)
- 本村 壮、織田良正、松藤則子、平田理紗、中島知太郎、西山雅則
- 「3度目の発熱外来受診時に診断し得た単純ヘルペス脳炎の1例」
- ・第18回日本乳癌学会九州地方会(3月6・7日 熊本城ホールWEB開催)
- 中村淳、中村宏彰、佐藤建、伊山明宏
- 「出血をきたしたT4乳癌に対して準緊急で乳房全切除+人工真皮貼付を行い、二次的に分層植皮術を施行した1例」

## 【講演・講義】

- ・嬉野高校非常勤講師(5月18・25日、6月1・8・15・22日、9月10・17・24日)
- 内野圭見「生活援助技術」
- ・鹿島藤津地区医師会看護高等専修学校講義(6月10・17・24、7月1・15・22・29日)
- 本村幹親「成人看護 特論リハビリテーション看護」
- ・鹿島藤津地区医師会看護高等専修学校講義(7月13・20日、8月31日、9月14日)
- 谷口賢一郎「成人看護循環器各論」
- ・第22回ゆうあい公開セミナー(7月13・14日 ケーブルテレビ放映)織田良正「新しい生活様式での熱中症予防」
- ・鹿島藤津地区医師会看護高等専修学校講義(7月22・29、8月26日 9月9・16・23日、10月8日)
- 廣津辰美「人体のしくみと働き・疾病の成り立ち・成人看護」
- ・第23回ゆうあい公開セミナー(7月27・30・31日 ケーブルテレビ放映)
- 中原快明「新型コロナウイルス感染症について」
- ・鹿島藤津地区医師会看護高等専修学校講義(9月～10月・7回)
- 久本由香「老年看護学概論」
- ・佐賀県看護協会 2020年度看護職再就業支援研修会(9月5日・12月9日)
- 山口賢太「医療安全」
- ・嬉野医療センター附属看護学校講義(9月8・15・29、10月6・13・20・27日)
- 小森ヒロ子「在宅看護論」
- ・はぐれオンラインセミナー(9月29日 Zoomミーティング)
- 吉田隆宏「血液ガス・呼吸機能データの見方について」
- ・日本看護協会DVD研修支援(10月1・2日)
- 市丸徳美「認知症高齢者の看護」
- ・佐賀大学医学部医学科4年生講義Unit 1(10月6日 WEB形式)
- 織田良正「地域包括ケアと医療」
- ・佐賀大学全学教育科目(インターフェース科目)講義(10月7日 WEB形式)
- 江口利信「ライフサイクルからみた医療」 医療現場における行動科学～MSWの視点から～」
- ・2020年度介護実務者研修介護労働講習(10月8・27日、11月16・18日)
- 石井大輔「実践講習:生活支援①・②・④・⑤」
- ・佐賀県看護職員認知症対応力向上研修(10月10・14・28日)
- 市丸徳美「地域連携、認知症・せん妄事例検討、認知症対応力向上のための研修企画立案」
- ・佐賀県在宅生活サポートセンター専門職向け講座(10月15日)
- 石井大輔「介護過程①アセスメントについて」
- ・第24回ゆうあい公開セミナー(10月23・24・25日 ケーブルテレビ放映)
- 坂田憲亮「褥瘡について」
- 川棚政信「座位保持での褥瘡予防」
- ・Antaa News(10月26日 WEB形式)
- 織田良正「オンライン診療はじめました。」
- ・第3回中外製薬医療WEBフォーラム(10月30日 THE FORME GINZA 9F)
- 織田正道「地域医療構想調整会議の活性化、そして新型コロナ」
- ・令和2年度第1回佐賀県認知症対応型サービス事業管理者研修講習(11月19日)
- 北川英俊「適切なサービス提供のあり方についてII(地域等の連携)」
- ・佐賀県在宅生活サポートセンター専門職向け講座(11月19日)

- 石井大輔「介護過程②介護計画書と評価について」
- ・佐賀大学医学部4年次生講義(11月24日 WEB形式)
- 江口利信「社会医学・医療社会法制(ユニット12)社会福祉」
- ・第25回ゆうあい公開セミナー(11月25・26・28日 ケーブルテレビ放映)
- 中根知子「自宅のできる嚥下訓練」
- ・令和2年度経営管理研修会(11月26日 WEB形式:岡山県病院協会主催)
- 織田正道「すでに起こった未来、病院はどう変わるべきか」-ICTを活用し「治し支える医療」への転換を本格化-
- ・2020年度介護実務者研修介護労働講習(11月27日)
- 石井大輔「生活支援技術II」
- ・三菱商事株式会社(ヘルスケア部)講演(12月1日 WEB)
- 織田正道「Aging in PlaceをデザインするICTを活用し「治し支える医療」への転換を本格化」
- ・介護労働安定センター 実務者研修講習(12月10日)
- 光武耕治「生活支援技術II(実技)」
- ・佐賀女子短期大学キャリアアップセミナー(12月25日)
- 井手真由美「介護福祉士の先輩から学ぶ」
- ・2021年「全日本病院協会 総合医育成プログラム」医療運営コース研修講師(1月10日 WEB開催)
- 織田正道 「地域医療構想と医療計画」
- ・長崎医療介護人材開発講座(1月13日 WEB開催)
- 織田正道「新型コロナウイルス感染症を踏まえた地域医療構想の考え方について」
- ・佐賀大学看護学科講義(1月26日)
- 市丸徳美「老年看護—介護老人保健施設における看護師の役割」
- ・鹿島藤津地区医師会看護高等専修学校講義(2月8・15・22日)
- 原和行「保険・医療・福祉のしくみ」

## 【論文】

- ・織田正道、織田良正、森川伸一、江口利信、神代修、村吉英樹、久野悠一郎
- IoT・AIを活用した「在宅見守りシステム」の概要及び特徴と有用性 月刊新医療 第47巻第5号
- ・織田正道「超高齢社会対応から見通す医療IT化の未来」メディカルノート(NEWS & JOURNAL)
- ・織田正道「MBCによる地域包括ケアの実現」Visionと戦略2020.10
- ・織田正道「地域における将来の医療需要、地域医療構想調整会議の動向の把握を」WAM 2021年2月号(独立行政法人福祉医療機構)
- ・織田良正「ICT活用で病院から在宅患者を見守る」週間医学界新聞 第3377号
- ・織田良正、佐藤正通(分担執筆).I臨床編 6地域包括ケア 15在宅医療(Home Healthcare). 病院総合診療医学 追補版(電子版).I臨床編: 51-54: 日本病院総合診療医学会, 2021
- ・織田良正、佐藤正通(分担執筆).I臨床編 6地域包括ケア 16介護保険制度. 病院総合診療医学 追補版(電子版).I臨床編: 55-57: 日本病院総合診療医学会, 2021
- ・織田良正「地域のかかりつけ医と多職種のための心不全における介護サービスの活用方法Q&A」ワーキンググループ委員、分担執筆等. 厚生労働省研究費補助金 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業, 2021
- ・織田良正. 特集1 在宅療養を支援 医療と生活の場をつなぐ「リモート」実践と課題 ICTを活用し退院直後の在宅患者の安心を高める「メディカル・ベースキャンプ」の取り組み. 地域連携 入院と在宅支援, 13(6): 2-7, 2021
- ・山下駿、織田良正、神代修、森川伸一、香月尚子、多胡雅毅、西山雅則、織田正道、山下秀一
- 「Internet of Things (IoT)を用いた室温介入調査:高齢者自宅は熱中症の危険性が高い」Journal of Telemedicine and Tererecare16(1):2-6,2020.
- ・Jun Nakamura , Tomoyo M Nishi , Shun Yamashita , Hiroaki Nakamura , Ken Sato , Yoshimasa Oda , Akihiro Iyama. Pegfilgrastim-associated large-vessel vasculitis developed during adjuvant chemotherapy for breast cancer: A case report and review of the literature. J Oncol Pharm Pract 2020 Oct;26(7): 1785-1790.
- ・Tago M, Katsuki NE, Oda Y, Nakatani E, Sugioka T, Yamashita SI. New predictive models for falls among inpatients using public ADL scale in Japan: A retrospective observational study of 7,858 patients in acute care setting. PLoS One, 15(7): e0236130, 2020. 7
- ・山下駿、多胡雅毅、織田良正、織田正道、山下秀一. 高齢者の熱中症が室内で発症し得る室温のIoTを用いた観察研究. 日生気象会誌, 57(2): 95-99, 2020
- ・中平圭: 当科での1年間の帯状疱疹関連痛に対する漢方処方の検討 痛みと漢方 Vol.30:66-69,2020
- ・坂田憲亮、右田尚、清川兼輔: 感染が胸鎖関節に及んでいた開心術後縦隔炎の2例. 雑誌形成外科 63(11):1427-1432,2020
- ・久本由香「看護記録からみたIoTを活用した夜間業務の変化」全日本病院協会雑誌 Vol31-1.
- ・小柳有理「行動・心理症状を発症した患者のDemetia Care Unit入室前後の睡眠・覚醒リズムの変化」全日本病院協会雑誌Vol31-1.
- ・Masaki Tago, Naoko E Katsuki, Shizuka Yaita, Eiji Nakatani, Shun Yamashita, Yoshimasa Oda, and, Shu-ichi Yamashita: High inter-rater reliability of Japanese bed riddenness ranks and cognitive function score: a hospital-based prospective observational study.BMC Genetics21: 2021.
- ・中山翔太、大串昭彦、織田良正、杉岡隆: 末梢血好酸球増多から積極的に生検を行い好酸球性胃炎が疑われた1例. 日病総誌2021; 17(2):233-235
- ・原和行、山下駿、織田良正、織田正道、江口利信、小森ヒロ子、神代修 ~ MBC(メディカルベースキャンプ)とIoTを活用した在宅支援への取り組み~ 全日本病院協会雑誌Vol31-1 2020

### 新入職員紹介

一言メッセージ



奥野 将  
華剤科(華剤師)

まだ、業務を覚えることで手一杯で、時間が過ぎていくのがとても早いです。早く一人前の薬剤師として、患者さんの力になれるよう精進していきたいと思います。



柳島 かおり  
三階病棟(看護師)

入院している患者さんの大半が80〜90歳台であり、高齢化社会の現実を実感しながら働いています。訪問看護分野に興味があるため、在宅や福祉施設との連携についても学びたいと思っています。



久原 尚子  
四階病棟(看護師)

入職してあつという間に4か月が経ちました。不安や緊張もありますが先輩や患者さんと関わる中で毎日気づきや学びを得ることが出来ています。少しでも患者さんの安心や笑顔に繋がる看護が提供出来るように努力していきたいです。



山崎 みちる  
三階病棟 看護学生

想像していたよりも覚えることが多くて、不安や緊張もありますが、習ったことを一つ一つクリアしていきたいです。



古賀 史恵  
リハビリテーション科(理学療法士)

入職して4カ月、新しい気づきや反省点が多くなると嬉しい毎日でした。職場の先輩方や同期に恵まれ日々業務に取り組むことができています。今後は一層努力を重ね、周囲への感謝を忘れず成長したいです。今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願ひします。



武富 智樹  
リハビリテーション科(理学療法士)

業務の中では知識不足、経験不足を痛感する場面が多々ありますが、リハビリ職の先輩方をはじめ、他職種の皆様からの指導や助言にいつも助けて頂いており織田病院に就職する事ができて本当によかったと思います。私もそうなるよう日々学んでいきたいと思っています。これからもご指導、ご鞭撻の程よろしくおねがいします。



田中 明  
リハビリテーション科(理学療法士)

理学療法士として働いていくには多くの知識や技術を求められるため、日々反省し先輩方から勉強させて頂く毎日です。早く1人前になるために努力を

重ね、今以上に織田病院に貢献できる人間になりたいと考えております。



福地 里奈  
リハビリテーション科(言語聴覚士)

患者様の状態をしっかりと把握し、リハビリを行う上で他職種との密な連携が必要だと感じます。特に、食事面において食事の際の状態などを看護師さんから聴取し徐々に食上げを行っていく際に強く感じます。

そのため、今後は他職種の方々と密に関わり患者様が早く退院できるように努めていきます。また、色々なことを学びセラピストとして成長していきたいです。



山口 愛実  
リハビリテーション科(理学療法士)

働き始めてあつという間に4ヶ月が経ち少しずつ業務にも慣れてきました。職場の先輩方は皆さん優しく、分からない事など丁寧に教えて下さり毎日楽しく働いています。今後多くのことを吸収していきたいながら成長出来るよう頑張ります。



井本 未来  
診療支援部検査科(臨床検査技師)

検査方法を理解し、一人前の検査技師になり一人でも多くの患者様に適確な検査データを提供できるように頑張りたいと思います。



古田 紗加  
栄養食事サービス部(調理員)

調理師免許取得に向けて、いろいろな技術や知識を身につけたいと思います。



中村 華純  
医事課

まだ分からないことがありますが、これからも頑張りますのでよろしくお願ひします。



東内 紅華  
医事課

覚えることが多くて大変だけどこれからも頑張ります。



松本 友哉  
一階療養棟(介護職)

4月から働いてきて思ったことは、利用者様から「ありがと」や「助かるね」等と言ってもらえて、お互いが笑顔で接することができているのがいいなと思いました。今後は、利用者様のことや思いやってみる利用者様と関わって、頼ってもらえるようになりたいと思います。



福野 裕香  
二階療養棟(介護職)

対人職なので日々悩むこともありませんが、それ以上にやりがいや達成感がある仕事です。

### 編集後記

リハビリテーション科 駒井 亮司

9月に入り、幾分残暑も和らぎ秋を感じる季節となりましたが、皆様、いかがお過ごしでしょうか。

さて、先日東京オリンピックが開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、観客数を制限しての開催や、出場選手やスタッフへの定期的なPCR検査、滞在期間中の行動制限など様々な感染対策を講じての大会となりました。このような厳しい状況下でもテレビやSNSを通じて選手達の活躍を聞くたびに、改めてスポーツの素晴らしさや各国のトップアスリートによるレベルの高いプレーに感動を覚えました。一方で7月下旬から8月にかけて全国で新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大が起きており、国内の1日あたりの感染者数も2万人を越えています。緊急事態宣言やまん延防止重点措置の発令に伴い、県外への移動自粛や飲食店での時短営業などの対策が続けられています。当院でも正面玄関での問診や検温、マスク着用の徹底などを継続して行っており、患者様ならびにご家族様、関係者の皆様にはご負担をお掛けしております。引き続きご理解・ご協力を宜しくお願い致します。